

市史編さん事業について

1. 事業の目的・概要

- 立川市史編さん基本方針（平成 28 年 3 月策定）にそって、平成 27 年度から令和 6 年度までの 10 年間で予定して実施。
- 諮問機関として立川市史編さん委員会を設置して基本的な事項を審議。
- 時代・分野ごとに、先史部会、古代・中世部会、近世部会、近代部会、現代部会、民俗・地誌部会の 6 つの専門部会を設置して編集を行う。
- 各専門部会では、関連する資料の収集や所在調査、地域の古老や自治会、社寺、老舗などからの聞き取り調査を継続して実施。
- 資料収集では多くの市民や団体から寄贈、借用の協力を得ている。
- 事業の成果は、「新編立川市史」として平成 29 年度より順次刊行。
- 市史編さん事業の周知を図るため普及啓発事業を行う。

2. 編さん委員会・編集委員会について（令和 3 年度）

種 別	開催回数	内 容
編さん委員会	1 回	事業の進捗状況確認、収集資料の保存・活用について等
編集委員会	2 回	資料の収集・調査、資料編・通史編の編集について等

3. 市史の刊行について（平成 29 年度～令和 4 年度）

年度	書 名	判 型・頁 数・頒布価格
4	「資料編 先史」 「調査報告書 古代・中世編 1」	
3	「調査報告書 先史編 2 大和田遺跡 第 1・3・4 地点発掘調査資料 再整理報告書」 「調査報告書 先史編 3 立川市域の古墳時代」	A 4 判・284 頁・価格未定 A 4 判・96 頁・価格未定
2	「資料編 近世 1」 「資料編 近代 2」 「調査報告書 民俗・地誌編 2 柴崎の口承文芸」	B 5 判・600 頁・2,500 円 B 5 判・600 頁・2,500 円 A 4 判・130 頁・600 円
31	「資料編 古代・中世」 「資料編 現代 1」 「資料編 柴崎の民俗」	B 5 判・660 頁・2,500 円 B 5 判・600 頁・2,500 円 B 5 判・550 頁・2,500 円
30	「資料編 地図・絵図」 「調査報告書 先史編 1 向郷遺跡 竹内勇貴氏寄贈資料調査報告書」 「調査報告書 民俗・地誌編 1 砂川青年団資料集」	A 4 判・190 頁・3,000 円 A 4 判・177 頁・1,000 円 A 4 横判・550 頁・1,500 円
29	「調査報告書 近世編 1 鈴木家文書目録」	A 4 判・249 頁・1,000 円

※編さん計画では、本編（通史編）2 冊、資料編 12 冊、別編 4 冊、調査報告書 8 冊を刊行予定

4. 普及・啓発事業について（令和3年度）

○市史編さん広報紙「たちかわ物語」の発行（A4判、四色刷り、12頁、各3,000部）

- ・第12号 令和3年9月21日発行
- ・第13号 令和4年3月11日発行（予定）

○立川市史編さん事業関連講演

配信開始	令和4年3月初旬から立川動画チャンネルにて配信予定 (新型コロナウイルスの影響により開催方法を変更)
テーマ	大正・昭和の記録にみる立川の暮らし-『資料編 近代2』から
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・保坂一房（立川市史編さん近代部会部会長） <ul style="list-style-type: none"> ①立川飛行場と立川町制施行 ・高江洲昌哉（立川市史編さん近代部会副部会長） <ul style="list-style-type: none"> ①軍都立川での戦時下の暮らし-1940年～1945年- ②戦時下における人々の心性-慰問文・愛国運動・戦勝祈願- ③供出と献納-金属供出から産業戦士への「献納」まで- ・小島庸平（立川市史編さん近代部会編集委員） <ul style="list-style-type: none"> ①近代立川の農業のあゆみ ②戦前期の立川飛行場と地域社会 ③膨張する立川の財政と大恐慌 <p>※計7本の動画を配信。各動画の時間は10分程度</p>

○立川市史編さん事業関連展示

会場	窓口サービスセンター多目的スペース（立川タクロス）
開催期間	令和3年4月6日（火）～6月25日（金）
テーマ	市史編さん事業と公文書
内容	市史編さん事業の周知及び写真パネル、公文書資料等によって立川の近現代を振り返る

5. 今後の課題について

○新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しており、大学・図書館等の閉鎖や入場制限等による資料調査の停止、対面調査の中止等により、進捗の遅れを解消できる状況にない。一部刊行物のスケジュール先送りや刊行順の入替など計画を見直したが、今後の情勢に注視していく必要がある。

○収集した資料に加え、複写・複製した2次資料も含め、現在までに2万点を超える資料を保管しており、今後、「写真集」の編集本格化等に伴い、さらなる増加が見込まれている。また、市史の刊行後も、掲載資料の保全や閲覧等の対応が求められるため、将来的な保管場所の確保や適切な管理、目録の整備等について検討していく。